

# 三水会会報

北里大学水産学部  
同窓会会報  
第 51 号

平成18年3月5日発行

編集者 内藤 文隆  
発行 三水会(北里大学  
水産学部同窓会)  
事務局 〒246-0031神奈川県横浜  
市瀬谷区瀬谷5-22-1  
TEL フリーダイヤル  
0120-873-135

<http://www.ajt.co.jp/sansuikai>  
E-mail [sansuikai@ajt.co.jp](mailto:sansuikai@ajt.co.jp)

川内教授紫綬褒章受章	P. 2～P. 4
井田先生を囲む会in三陸	P. 4～P. 5
OB会報告	P. 6
漁火祭報告	P. 6～P. 7

三水会の個人情報保護に対する取組み	P. 7
「見たい・知りたい・話したい」	P. 8
OB会案内他	

伝達式にのぞまれる川内教授



川内教授ご夫妻

松浦文雄先生. 中央

## 『川内教授紫綬褒章受章』



紫綬褒章を受章して

北里大学水産学部

教授 川内 浩司

昨年秋の紫綬褒章受章に際し、同窓生の皆様から多大の祝意を頂きまして有り難うございました。十一月十六日如水会館において、小坂文部科学大臣から褒章と章記の伝達を受け、褒章を胸に皇居・春秋の間に参内し、天皇陛下に拝謁する榮譽を賜りました。十一月二十六日のLME同窓会、十二月九日の白金における受賞記念シンポジウムならびに懇親会、十二月十五日の水産学部における受賞記念講演では多くの方々のご参加下さいました。心から御礼申し上げます。この受章は、世間から見れば、恵まれた環境とは思えない三陸で三水会の会員と共に三十二年間にわたり積み上げてきた研究成果が評価されたものです。言い換えれば、意外な場所、北里大学水産学部での教育と研究の一端が認められたことであり、そのことがこの喜びを一層大きくしてくれます。

カリフォルニア大学サンフランシスコ校ホルモン研究所から三陸に赴任して、私が抱いた感慨は皆さんが相模原から進級したときのものと大差ないでしょう。言うまでもなく研究環境はゼロからの出発でした。クジラから初め、地の利を生かしてシロサケの脳下垂体ホルモンを研究しました。毎年十二月に一週間ほど研究室をあげて公民館に泊まり込んで津軽石川に遡上するシロサケの脳下垂体採取したサケ(酒)合宿は楽しい思い出です。九十年までに三つの新ホルモンを含め全ての脳下垂体ホルモンを同定しました。シロサケ脳下垂体ホルモンの研究成果が魚類からの多数の若手研究者が三陸に集まり、加えて国内外の優れた研究者の協力を得て研究の幅と内容を深めることができました。さらに、魚類を中心に脊椎動物の系統進化を遡り、最後は最も原始的な脊椎動物である円口類の研究から脳下垂体ホルモンの起源に迫ることができました。このような研究の発展の基盤となったのは、いうまでもなく、私の研究室で共に勉強した三百七十五名の四年生、二十三名の修士、及び十二名の博士、十五名の博士研究員の熱心な研究の賜であります。したがって、紫綬褒章の受章は実に多くの方々力が結集して達成されたものであり、この榮譽と喜びを共に分かち合えることは誠にしあわせなことです。

大学における研究とはあくまでも教育の手段であると私は考え、実行してきました。したがって、私と縁のあった方々がそれぞれの能力を発揮し、世の中で活躍しているのを見るのが、褒章にもまして嬉しいことです。私は今年三月をもって北里大学水産学部を定年退職します。三十二年間有り難うございました。三水会会員の皆様のますますの活躍を期待しています。

### 川内教授紫綬褒章受賞記念

#### シンポジウムに参加して

吉見 匠平(四年生)  
私は、音響係としてシンポジウムに参加しました。当日の事は緊張や動揺のためかよく思い出せませんが、川内先生よりシンポジウムは成功だったとお言葉を頂くことが出来ました。また、会場にはOBの先輩方も大勢来られており、先生方の裏話など面白い話を聞かせていただくことが出来ました。シンポジウムには初めて参加しましたが、とても有意義な体験だったと思います。懇親会で食べたお肉も美味しゅうございました。

宮部 陽介(四年生)

私は本シンポジウムの会場スタッフとして参加させていただき、川内

先生をはじめ、多くの著名な先生方のご講演のお手伝いをする事ができてとても良い経験となりました。そして川内先生がこれまでやってこられた膨大な功績に大変感動を受け、印象に残るものとなりました。また研究面だけでなく川内先生の学生への教育に対する考え方についても深く共感することができました。本シンポジウムを通じて、非常に沢山のことを学び、それらを自分の将来につなげていきたいと思えました。

熊田 ひかり(四年生)

川内先生は素晴らしい研究者であると共に素晴らしい教育者である。

今回のシンポジウムはまさにその両方のことを再確認した場であった。国際的で著名な先生方の講演と多数の出席者、そして遠路はるばる幾人もの先輩方がお祝いおよびお手伝いに駆けつけて下さった。事実私も4月から先生のご指導を受け自分自身でも成長していると実感している現状に対し、驚きとともに川内先生への感謝の気持ちでいっぱいである。

原 まゆ子(四年生)

外国や遠方からも先生のシンポジウムにいらっしやったことに、先生はなんて凄いのだろうと、とても興奮しました。こんなに素晴らしいシンポジウムのお手伝いをさせて頂いたことが凄く嬉しく、これ程多くの

方の注目を浴びている先生の下で、勉強させて頂いていることに感謝します。

懇談会で、先生に頑張れよと言つて頂けた時は、まさかこんな自分に声を掛けて頂けるとは思つておらず、本当にありがとうございます。

坂本 正(四年生)

今回のシンポジウムで最も印象的だったのが、川内先生の発表後に起きた大きな拍手です。裏方の仕事で少し疲れが溜まっていたのですが、その瞬間に疲れが喜びに変わりました。出席者のみなさんが、心から川内先生を祝福しているのがわかりました。二度とできないかもしれないとても貴重な経験ができて、本当によかったです。

山本 祐司(四年生)

シンポジウムのなかで川内先生からとても印象的な言葉がありました。「見られないことばかりだ。みる、されなれないことばかりだ。する、決められたことはない。きめる」という言葉です。これは社会に巣立とうとする我々にとつてどの世界で生きていこうとも共通して言える認識であり、また卒業間近な我々を鼓舞するものであるといえます。川内先生からセミナーや研究、日々の会話を通して様々なことを教わりましたが、この言葉に秘めた(凝縮された)教

えを行動に移せるよう、川内先生の最後の教え子として恥じぬ行動をするよう、この言葉を全うしていきたいと思ひます。

小林 勇喜(四年生)

本シンポジウムは私の人生において、正にひとつのターニングポイントとなる出来事であろう。

川内先生を始めとした最前線で活躍される著名な先生方のお話は、感銘を受けるとともに衝撃的であり、私の心に深く刻まれた。

私は、このような素晴らしい機会に学生として研究室に所属していたこと、また川内先生の最後の教え子であるという誇りと共に、本シンポジウムを通して受け入れた衝撃を心の財産として胸に抱き、これからの人生を歩んで行きたい。

杉本 哲康(四年生)

学術集会が初めての体験であり、しかも開催準備をする立場だったので非常に貴重な経験でした。当日は予定外の事が起こったりし、ばたばたしましたが、無事終えることが出来ほつとしました。これから私が卒業研究発表をしていくため、著名な先生方の講演はプレゼンテーションの方法についてとても参考になりました。今後、このような機会はありませんが、何かあったときはこの経験を活かすことができると思います。

増田 恵一(四年生)

シンポジウム(学術発表)に参加することは初めてだったので、どういう風に行われるものなのかが想像がつかなく、そのお手伝いというものをするものなのかもわかりませんでした。いざ実際に現地に行き、準備をして本番になってみて人が会場内に入ってしまったとき、予想以上の人の集まり方だったので、そこで初めて大変重大なお手伝いなのだなと実感しました。先生方の発表はとてすばらしく、やはり経験というものの違いを思い知らされました。学術発表に参加できて本当に良かったです。

大木 実(四年生)

川内教授のシンポジウムに音響係として参加し大変貴重な経験をさせて頂きました。

本番では前日に実施した練習通りには行かず問題も発生し、大変でした。しかし、今回参加したことは誇りでもあり、自分を成長させてくれた経験だと思っています。今回の経験はこの先経験できるとは限りませんが、これから社会人になるうえで今回の経験は役に立つと思っております。

池上 太郎(四年生)

私は会場スタッフとして本シンポジウムに参加させて頂きました。

シンポジウムでは世界の第一線で内分泌研究をされている先生方の素晴らしい発表を聞くことができました。また川内先生のご講演では研究への情熱、新ホルモンを発見したときのエピソードを聞くことができ、非常に刺激的でした。また研究を通して学生を育てていく先生の姿勢に深く感動しました。

中村 智史(四年生)

今回のシンポジウムの準備と運営を通して、多くのことを学ぶことができました。研究室の一人ひとりが役割を自覚し、責任を持って行動することで、シンポジウムを無事成功させることができました。この経験は、社会人として組織の中で仕事をしていく私にとって、貴重な体験となりました。今回学んだことを自分なりに消化し、社会に出て活かして行きたいと思ひます。

萩原 理彰

非常に和やかなムードで行われたというのが、今回の紫綬褒章受賞記念シンポジウムについての印象でした。もちろん、私はシンポジウムというものに参加するのは初めてだったので、普段のシンポジウムの雰囲気というものがどういったものか知りませんでした。しかし、今回のシンポジウムでは多くの研究者が、川内先生と共有した時間を語っており、研究とともにあった川内先生の人生

を少しだけ感じることができたように思います。

武藤 謙介(四年生)

私は、今回シンポジウムにマイク係スタッフとして参加しました。当日は予定通りにかかない部分もありましたが無事、成功を修めることができてとてもよい経験となり、充実した一日でした。紫綬褒章記念シンポジウムを通して川内先生の話をはじめ、多くの著名な先生方の講演を聞き、改めて先生方の偉大さを実感し、将来自分も皆に尊敬されるような素晴らしい人間になりたいと感じました。

鈴木 亘(四年生)

紫綬褒章記念シンポジウムのマイク係としてお手伝いし、それによりシンポジウムがどのように運営されているか裏から体験することができて大変勉強になりました。卒業までの残りの日々を大切に、海洋分子生物学研究室において論理的な思考力を身につけ、社会に出てからも大変すばらしい研究室に在籍できたことを誇りにしていきたいと思いました。

笠原 諒(修士二年)

私は研究室の大学院生として4年生と共にシンポジウムの運営スタッフを務めました。一番印象に残った

のは川内先生を慕って国内外から大勢の方がシンポジウムに参加していたことでした。これは川内先生の研究業績もさることながらそのお人柄の賜物であると思います。改めて川内先生、紫綬褒章受賞おめでとうございます。

小林 隆誠(修士二年)

私は平成17年12月9日、川内先生の紫綬褒章記念シンポジウムにスタッフとして参加することができました。このような貴重な機会を持てたのは、私が川内先生の学生であるからであり、身に余る光栄でした。シンポジウムでは国内外から先生と縁の深い研究者の方々が集まれ、改めて先生の人柄や研究者としての偉大さを感じました。川内先生の学生であることを誇りに、また恥ずかしくないよう精進していこうと思いました。



### 『井田先生を囲む会』三陸

9期生 朝日田 卓



「うおっ、どっちが勝つか?これはいい勝負だ。あつ、現役警部の一瞬の隙をついて井田先生が一気にもって行った。警部耐えられるか?井田先生渾身の力で攻める。ギブアップ、井田先生劇的逆転勝利です。」これは囲む会での腕相撲大会のひとつ。65歳にあと一ヶ月と迫った井田先生は、二人の卒業生を退けた後、現役警察官のOBを破り、ご自慢の筋肉の健在ぶりを示したのです。

昨年10月15日、「井田先生を囲む会」を漁火祭でにぎわう三陸で開催し、1期生から30期生までの卒業生(北海道から沖縄まで)、在校生、合わせておよそ90名の方々の参加を頂きました(講演会は130名)。また獣医畜産学部の今井教授も十和田から駆け付けて下さいました。囲む会は、1. 井田先生特別講演「世界お魚行脚」に始まり、2. 美人卒業生による花束および記念品(特製井田漁業部大漁旗、記念Tシャツ、記念帽子)贈呈、3. 大騒ぎで行った屋上での記念写真撮影、

4. 売り切れ御免、記念Tシャツおよび井田先生サイン入り著書販売、5. 大懇親会(三陸研究所)・1期生坂本氏による乾杯・参加者によるご祝辞・祝電披露・ご厚志披露・在校生特製巨大プリン贈呈・井田先生との腕相撲大会(優勝・井田先生)・特製ケーキ贈呈(美人卒業生が食べさせてくれました)・9期生井上氏による一本締め・井田先生感激のご挨拶、といった内容で行われました。

囲む会を盛況のうちに終えることができましたのは、参加者はもちろん、三水会やご支援をいただいた多くの方々のおかげです。本当にありがとうございました。以下に、参加者から寄せられた感想メールをご披露させていただきます。

参加者から寄せられたメール 

「体験ダイビング・片岸川撮影会・記念講演会・懇親会等々、早朝からてんこ盛りメニューでしたが、充実した二日間でした。井田先生とは20年振りの再会でしたが、記念講演会でも聴衆を引きつけ専門的なお話を楽しく判りやすく語って下さいました。懇親会では、学部生や大学院生の方々がテキパキした段取りですばらしいもてなしをして下さいました。大漁旗の贈呈等趣向を凝らした出し物もありアツという間に時間が過ぎました。まるで竜宮城に迷い込んだような気持ちになりました。

先生のサイン入り著書の販売コーナーもあり、井田漁業部のTシャツや帽子もあって、文字通り井田先生一色で幕を閉じました(中村(府録)義幸)。

「当日はネームプレートが用意されていて、初対面の方にも話し掛け易く、交流が深まりました。懇親会のスライドでは井田先生の若かりし頃に出会えましたし、改めて井田先生の偉大さを感じました。食事でも在学生の頑張りもあり、三陸の地ならではの美味が味わえ、皆さん喜んでいました。近くにいるのになかなか会えない友人にも三陸で再会することができました。やはり三陸は皆の心の拠り所です。普段人ごみの中であくせく働いている人も、懐かしい会話に、井田先生の笑顔に癒されたのではないのでしょうか(戸村真優子)。」

「我が心のふるさとに井田先生がいらつしやらなくなるのは寂しい限りですが、先日の囲む会では、井田先生はじめ懐かしい面々と久しぶりにお話しできたことと、また、現役 of 学生たちとも話が出来て非常に有意義な時間を過ごさせていただきました(久保田龍二)。」

「短い時間ではありましたが、先生の講義を久しぶりに聞き、懇親会では懐かしい仲間と逢えてとても楽し

かったです。懇親会で多くの色々な年代の卒業生と会って話をしている先生の幸せそうな顔が印象的でした。私はそんな先生の顔を見られたのが一番良かったと思いました(加藤寿郎)。」

「大学を卒業後、仕事に追われる毎日、三陸で季節を味わいながら、先生方や友人と過ごした時間が遠いものになっていました。そんな中、10月に開かれた「井田先生を囲む会」では、学生時代と変わりなく優しい笑顔の先生、先輩方、共に学生時代を過ごした同級生、今まさに学生時代真っ只中の後輩たちに会い、あたたかく、懐かしい力をもらいました。時は重ならなくても、同じ場所、学生時代を過ごす時間が、人の繋がりをつくっていく事を感じ、私が過ごした三陸での時間の大切さを実感しました。本当に、良い会に参加出来た事をうれしく思います(青木英奈)。」

「先日の会は在学中にお世話になっておきながら卒業論に追われてきちんと挨拶できなかった先生方にまたお会いすることができ、同期とも社会人として再会し、感慨深いものとなりました。昨年卒業の私でさえそうなので、代々のOB OGGの方々はひとしおだった事でしよう(田中聡子)。」

「これまでの井田先生の口癖だった、「ぼくはまだ三陸を卒業できずにおります」が今後聞けなくなるのは残念です。私は4年生から大学院までの計6年間もお世話になり、多くのことを学ばせていただきました。なによりも、井田先生と新種の魚を発表できたことが光栄です。今後も、井田先生とともに、魚類の新たな発見に関する研究発表が出来ればいいなと思っています。そしてかわいい愛犬メグにも、たくさんの思い出をもらいました。今後は、メグとともに第二の人生をゆつたりと楽しんでください(岡本誠)。」

「お陰様で大変楽しいひとときを過ごすことができました。でもって研究室でも何だかんだ言いながらしっかりと先輩ツラしてしまっています。・お恥ずかしい限りでございます。現役の皆さんにもよろしくお伝え下さい。御大・井田酋長が三陸を離れようとも、私はチャンスがあれば今後も行き続けるつもりです。その時にご挨拶に伺いますので、「誰?」とか言わないで下さいね(笑)(河合要)。」

「井田先生を囲む会では色々ご配慮いただきましたありがとうございます。たくさんの参加者で生態学研究室OBの絆の強さにビックリしました。次回イベントも楽しみにして

います。たいした渋滞にも逢わず、順調に気仙沼経由で東京へと向かい、バスツアーも無事に終える事が出来ました(石井美華)。」

「三水会をはじめの参加とても楽しい時間を持ってましたことまずは、御礼申し上げます。次回は子供連れて夏休みに行きたいですね(井上雅夫)。」

「三陸研修所に冷凍食品を計3箱送りました。皆さんで会を盛り上げるための足しにしてください。今回は本当に行きたいのですが、日帰りできそうな距離ではなさそうなので、ごめんなさい。うちの会社に北里生を引つ張れるように頑張ります。井田先生や皆さんによりしくお伝えくださいませ(諏訪仁)。」

今年の6月には上野で「井田先生の卒業式」が開催される予定と伺っています。この記事をお読み下さいました皆様、是非「卒業式」に足を運び下さいますようお願いいたします。



## 『魚類生理OB会報告』

増殖学科 24期生 八鳥 洋二

平成17年12月10日(土) 午後6時より横浜中華街 景珍樓(ケイチンロウ)にて、魚類生理学研究室同窓会が開催されました。

山森先生、天野先生、奥村先生をお迎えして4期生～28期生まで総勢18名、先生方を囲み当時の懐かしい話、近況報告、多くの話題に花を咲かす事ができました。

毎年、母校から多くの卒業生が社会へ出ておりますが、それは私たちが思っている以上に広く様々な世界で活躍され、それがとても身近な存在である事に毎回驚かされます。そんな卒業生と親交を深められる機会こそ、この会のもう1つの魅力ではないでしょうか。多くの方がお互い「北里出身」と知っただけで、物事がうまく進んだという経験は多々あると思います。

この大切な機会に感謝しつつ、とても内容の濃い形でOB会の幕を閉じる事ができました。参加された皆さんが終始笑顔であったのもとても印象的でした。本当にありがとうございました。今回残念ながら参加でき

なかつた方も次回は是非ご参加いただきたいと思えます。

引き続き次回の幹事も、私八鳥洋二(24期生)が努めさせて頂く事になりました。

至らないところも多々あると存じますが、先輩、若手の皆さんのご支援とご協力をお願い致します。

個人的な話で申し訳ありませんが、現在私は旅行業の仕事をしておりまして。

主に海外フィッシングツアーの企画・手配をしていますが、国内外ご旅行をはじめ出張や里帰りに至るまで、格安航空券のみの手配販売等も行っております。

先生方、在学生・大学関係者の方々、卒業生の方々に対し、安価でご提供させて頂ければと思っております。卒業生として、社会人として、私も皆様のお役に立てれば幸いです。

ご用命の際は、

㈱エイトバード 八鳥洋二

HP: <http://www.8bird.com/fishnavi/>

E-mail: [fishnavi@8bird.com](mailto:fishnavi@8bird.com)

までご一報ください。



## 『第33回漁火祭報告』

水産学部3年 森本太郎

去る10月15、16日の両日にわたり第33回漁火祭が開催されました。今年「Give it a try(みんなでき)」、みんなできやってみようという意味のテーマのもと、一人でも多くの方々と楽しいひと時を共有できることを目指し我々実行委員は準備をしてみました。5月に漁火祭の準備が始まってからというものの、本当にあつという間に過ぎた半年間でした。

当日が近づく1日中、トラックでパイプイス、テント、パネル等を運び、各々の実行委員が仕事に奔走していました。残念ながら1日目は雨でしたが、そのような天候にもかかわらず、多くの近隣の方々にご来場いただき構内は多くの人で賑わいました。軽音楽部、ダンス、よさこい、吹奏楽、ジャグリング、浦浜金津流獅子踊り、今年で最後になる気嵐志といった各団体のパフォーマンスも大きな盛り上がりを見せました。また、マッスルグランプリ、逆ミスコン、魚リー(ウオーリー)をさがせ、おばけ屋敷などの企画も少数でしたが中身の詰まった内容となり、ご来場いただいた方々に楽しんでいただけたと思います。

一つ一つの企画は30分足らずの短い時間でしたが、その企画の立案



# 見たい・知りたい・話したい

## 『北里大学水産学部井田先生ご卒業記念パーティー』

### 開催のお知らせ

皆様ご承知かとは存じますが、北里水産学部水圏生態学研究室の井田教授がこの3月に定年退職されます。三陸町で34年間の永きに亘り教鞭を執られ、公私共々私達と一緒に遊んでくださった先生の卒業を卒業生皆でお祝いをし、感謝と慰労の気持ちをささげるため、下記のとおり御退職記念講演及び祝賀会を催したいと存じます。つきましては、研究室、潜水部、生物部OBの方々はもちろんのこと、井田先生ファンクラブ、テニス仲間、麻雀仲間の方々も、皆様お誘い合わせの上、多数ご参加いただけますようお願い申し上げます。

《開催日時》 平成18(2006)年6月11日(日曜日)  
午後3時より 記念講演(最終講義)  
午後4時から パーティー

《開催場所》 東京上野池之端東天紅本店 平成ホール

《会費》 7,000円(記念品代を含む)当日集金

《申し込み》 平成18年4月30日までにE-mailまたはFAXで下記までお申し込み下さい。

卒業年度、連絡先を明記下さい。

TEL/FAX:0120-873135 E-mail:sansuikai@ajt.co.jp



尚、祝賀会では、井田先生に記念品の贈呈を予定しております。当日出席できない方で、この趣旨にご賛同頂けたら、一口¥1,000を下記の振込先に送金方お願い致します。ご賛同いただいた事は先生にお伝えいたします。

振込み先：郵便振替口座 00150-5-52855 小野 十美雄(環境生態学研究室3期生、潜水部OB)  
(払込取扱票の通信欄に記念品代と記入してください)

有志代表：小野十美雄(3FA)、高橋利明(4FA)、中村栄(9FA)

## 平成18年度三水会定期総会

下記により平成18年度定期総会を開催いたします。役員、代議員はもとより一般会員の方も傍聴できます。

《開催日時》 平成18年5月20日(土)午後6時～7時

《開催場所》 北里大学白金校舎 3号館 3802会議室

《協議事項》 平成17年度事業報告・収支決算

平成18年度事業計画・収支予算案

役員・代議員の選任について、その他

## 三水会代議員の改選について—代議員推薦のお願い—

早いもので前回の改選から3年近くが経ち、来年度総会において、代議員・役員改選が行なわれます。つきましては、代議員の推薦(自薦・他薦)を下記により受付を致します。氏名・卒業年・学科・卒論講座名・住所・連絡先電話番号、他薦の場合は推薦者名をご記入の上、事務局宛にお送りください。FAXでもかまいません。

代議員資格：三水会正会員 推薦受付期間：平成18年3月末

三水会事務局：〒246-0031 横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1 TEL/FAX:0120-873135 E-mail:sansuikai@ajt.co.jp

### ～訃報のお知らせ～

平成17年10月に阿田木宗平さん(食品学科7期生)が逝去されました。

平成18年1月に小川智彦さん(増殖学科3期生)が逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### 編集後記

この冬は各地で豪雪の被害が広がっております。三水会会員の皆様の中にも被害に遭われた方が、いらっしゃると思います。この場をお借りしてお見舞い申し上げます。異常気象と言われて久しい昨今ですが、四季を通じて多くの被害を毎年出し続ける自然の脅威に今さらながら畏怖の念を抱かれます。天気ばかりでなく、社会面でも暗いニュースが多い中、我が水産学部の川内先生が紫綬褒章を受章されたニュースは、我々卒業生にとって喜ばしいとともに誇りに思える素晴らしいことでした。本当におめでとうございます。これからも三水会としては、水産学部の素晴らしいニュースと三陸の楽しい情報を皆様にお伝えできればと願っております。また、皆様の親睦の場を大いに支援していきたいと考えておりますので、是非、皆様の積極的な発意とイベントへの参加をお願い申し上げます。